



2023年5月29日

各 位

会 社 名 電気興業株式会社
代表者名 代表取締役社長 近藤 忠登史
(コード番号 6706 東証プライム市場)
問合せ先 取締役執行役員 浅井 貴史
(TEL. 03 - 3216 - 1671)

(訂正)「2023年3月期 通期連結業績予想値と実績値との差異及び
通期個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ」の一部訂正について

当社は、2023年5月11日に公表しました「2023年3月期 通期連結業績予想値と実績値との
差異及び通期個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ」の一部を訂正しましたので、下記
のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所には下線を付して表示しています。

記

1. 訂正理由

本日公開しました「(訂正・数値データ訂正)「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連
結)」の一部訂正について」のとおり、2023年3月期の実績値の訂正を行ったことによるも
のであります。

2. 訂正箇所

訂正箇所には下線を付して表示しています。

1. 通期連結業績予想値と実績値との差異について

【訂正前】

(1) 2023年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 32,000	百万円 △ 1,800	百万円 △ 1,500	百万円 △ 1,700	円 銭 △ 153.38
実績値 (B)	31,817	△ 1,510	△ 1,219	<u>△ 1,114</u>	<u>△ 101.70</u>
増減額 (B - A)	△ 182	289	280	<u>585</u>	—
増減率 (%)	△ 0.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	33,968	53	448	705	59.51

【訂正後】

(1) 2023年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 32,000	百万円 △ 1,800	百万円 △ 1,500	百万円 △ 1,700	円 銭 △ 153.38
実績値（B）	31,817	△ 1,510	△ 1,219	<u>△ 1,181</u>	<u>△ 107.75</u>
増減額（B－A）	△ 182	289	280	<u>518</u>	—
増減率（％）	△ 0.6	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （2022年3月期）	33,968	53	448	705	59.51

2. 通期個別業績と前期実績値との差異について

【訂正前】

(1) 2023年3月期通期個別業績と前期実績値との差異（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値（A）	百万円 27,310	百万円 139	百万円 759	百万円 1,032	円 銭 87.01
当期実績値（B）	25,254	△ 1,171	△ 452	<u>△ 570</u>	<u>△ 52.05</u>
増減額（B－A）	△ 2,056	△ 1,310	△ 1,212	<u>△ 1,602</u>	—
増減率（％）	△ 7.5	—	—	—	—

(2) 差異の理由

通期の業績につきましては、売上高は主に移動通信関連分野において顧客の設備投資の抑制から、需要の落ち込みや先送りの影響等もあり前期実績に比べ減収となりました。

営業利益及び経常利益につきましては、減収に加え、部品等の長納期化による工期及び納入の遅延等に加え、エネルギー及び部品等の価格高騰、円安による海外からの調達コストの上昇等の原価上昇要因もあり、前期実績と比べ減益となりました。当期純利益につきましては、経常利益の減益に加え、事業再編を進めている在外子会社の株式の評価損及び貸付金の貸倒引当金の繰入れ等により前期実績に比べ減益となりました。なお、当該株式の評価損及び貸倒引当金繰入額については、連結決算においては消去されるため、連結業績への影響はございません。

【訂正後】

(1) 2023年3月期通期個別業績と前期実績値との差異(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値(A)	百万円 27,310	百万円 139	百万円 759	百万円 1,032	円 銭 87.01
当期実績値(B)	25,254	△ 1,171	△ 452	△ 277	△ 25.32
増減額(B - A)	△ 2,056	△ 1,310	△ 1,212	△ 1,309	—
増減率(%)	△ 7.5	—	—	—	—

(2) 差異の理由

通期の業績につきましては、売上高は主に移動通信関連分野において顧客の設備投資の抑制から、需要の落ち込みや先送りの影響等もあり前期実績に比べ減収となりました。

営業利益及び経常利益につきましては、減収に加え、部品等の長納期化による工期及び納入の遅延等に加え、エネルギー及び部品等の価格高騰、円安による海外からの調達コストの上昇等の原価上昇要因もあり、前期実績と比べ減益となりました。当期純利益につきましては、経常利益の減益に加え、事業再編を進めている在外子会社の株式の評価損等により前期実績に比べ減益となりました。なお、当該株式の評価損については、連結決算においては消去されるため、連結業績への影響はございません。

以 上